

専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム 資源開発人材育成プログラム

Good Practice Program

(実施期間:平成20年度～平成21年度)

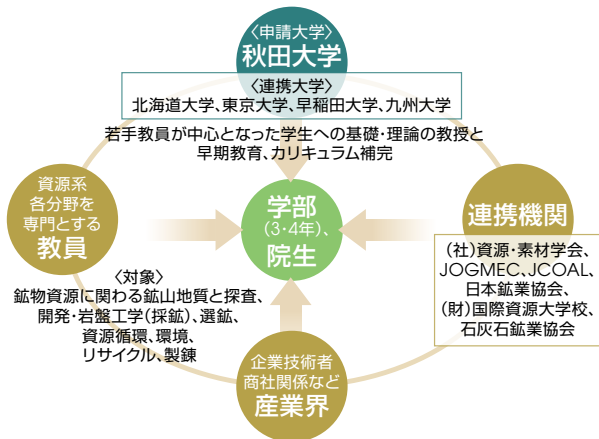
資源開発人材育成プログラムとは?

資源開発を支える次世代の人材育成を目的に、本プログラムでは、秋田大学が申請担当(幹事校)となり、資源系の学科・コース等を有する国内5大学の連携と関係学協会による協力のもと、全国の学生に資源の専門・集中教育を行うことになりました。本プログラムの特徴は、資源分野を学ぶ学生だけでなく若手教員などを全国から招集しオールジャパンとして資源教育にあたることです。

- 申請担当大学/秋田大学
- 共同申請大学(連携大学)/北海道大学、早稲田大学、東京大学、九州大学
- 連携機関/(社)資源・素材学会、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、(財)石炭エネルギーセンター、日本鉱業協会、(財)国際資源大学校、石灰石鉱業協会

「資源開発人材育成プログラム」

～次世代の資源系技術者・研究者育成を目指す実践的教育支援システム～



〈プログラムの狙い〉

1. 学生の資質向上と早期教育につながる教育連携プログラム
2. 実践的な教育の実施と教員の資質向上を狙った取り組み
3. 資源分野の魅力向上、企業とのパートナー関係強化

(1)「学部生からの大学連携プログラム」

①大学連携資源塾の開講

- 〈講師役〉 連携5大学を中心とする若手教員+企業の若手技術者、シニア教員
- 〈講義〉 原則は集中講義形式
- 〈座学〉 基礎と理論編に重点を置き、企業技術者から数コマ程度、現場および実践を意識した講義を行う
- 〈日数〉 5日間(初年度)
- 〈対象人数〉 原則、連携大学から30人程度

②各大学等への出前講義

(2)「海外実践プログラム」

- ①若手教員の海外研修、学生の海外研修補助

主な活動内容

(1)大学連携資源塾

学部・院生を対象とした資源学全般の集中プログラムを実施しています。平成20年度は平成21年3月2日(月)～3月7日(土)の6日間実施し、左記の連携5大学のほか慶応大学の学部2年生～大学院修士1年生の計34名が参加しました。鉱物資源に係わる地質・探査、資源開発から採鉱・選鉱、製錬、金属リサイクルや環境対策、資源経済に至る資源学全般を学び、企業からの話題提供や情報交換会など、若い人材が秋田大学に一堂に会する貴重な場となりました。平成21年度は8月に東京地区で開講します。

(2)資源学出前講義

大学で学ぶ2年生程度の学生を対象に資源分野のエントリー教育を出前講義として行います。平成20年度は早稲田大学の所准教授が秋田大学でも出前講義を行いました。

(3)海外実践プログラム

資源開発・鉱山の現場を実感し、実践経験やスキルを高めるために学生や若手教員を海外の鉱山・大学・研究所等に派遣します。平成20年度は学生5名、教員5名がチリ、ニューカレドニア、チェコ、オマーンなどを訪れました。

